

平成27年度「若手教員等研究支援費（若手教員等支援枠）」研究成果報告書

研究課題	特別支援教育における教師等の専門性をめぐる実証的研究		
氏名	村山 拓	所属 総合教育科学系 特別ニーズ教育分野	職名 講師
CITI Japan 研究倫理 e-ラーニングプログラムの受講 <input checked="" type="checkbox"/> ←受講済の場合はチェックをすること			
<p>【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字程度)</p> <p>本研究では、米国における Special Education Teacher や Special Needs Education Coordinator の専門性の特徴と、その職能の内容と機能を明らかにすることをめざし、特別支援教育教員の養成に資する知見を得ることを目指して計画された。</p> <p>同国の特別支援教育の教職をめぐっては、NBPTS (National Board for Professional Teaching Standards) や NCATE (The National Council for Accreditation of Teacher Education) などによる、専門職基準や、教師教育の質保証の議論がみられるので、Abbott, A. の専門職論と、それらを教師、カウンセラーなどへ援用した先行研究などを参考に、専門職性をめぐる議論の特徴を検討した。</p> <p>まず本研究に関わる専門職としての特徴として、主として次の二点が見いだされた。Abbott (前掲) は、専門職の特徴として、専門家相互の連携による発展を掲げている。例えば、専門職に共通する専門職性発展のパターン (形式) として、資格付与による知識の制度化が挙げられる。本研究で注目した特別支援教育教員についても、その資格付与による専門性基準は掲げられるものの、特別支援教員資格 (certification) の保有義務を課していない州も少なくなく、資格付与のみによる専門性の担保の仕組みをとっていない。Abbott は「管轄」(jurisdiction) の概念を用いて、専門家相互の連携による専門職の発展の特徴を指摘するとともに、ある専門職の発展が他の専門職にも影響を与え、相互共存的システムを形成するとともに指摘している。これらの指摘は、多職種連携にもとづく実践やシステムの構築が進められる特別支援教育の領域においても、有効な分析枠組みたり得る。</p> <p>Abbott による専門性のもう一つの特徴として学問的専門知 (academic professional knowledge) を挙げられる。これらをふまえ、本研究では NASET (National Association of Special Education Teachers) および CEC (Council for Exceptional Children) の議論を検討した。前掲のように理学療法士や作業療法士、診断・評価職員 (Diagnostic and Evaluation Staff) などとの多職種連携にもとづく実践が進められる一方、Special Education Teacher に固有の専門性として、教科内容に関する指導内容、教授 (teaching) に関する知識や専門性やその質向上に関する議論が少なからず見られた。そのため、特別支援教育領域における Pedagogical Content Knowledge (教育内容に関する教授学的知識) に注目してテキスト分析を行い、専門職基準を構成している主要概念の抽出を行った。</p> <p>専門職基準については、複数の職能団体が基準を策定、公表しているが、とりわけ職業準備 (preparation) 段階での教師教育における専門職基準については、前掲の CEC によるものが頻繁に引用されており、専門職基準のひとつの指標となることを確認できた。CEC は NCATE (前掲) と協同で “CEC Initial and Advanced Preparation Standards” の改定を2012年に行っている。前掲の PCK に関しては、Curricular Content Knowledge を項目立てしているのと同時に、Core Academic Subject Matter Content として各教科に関する広範な理解が求められていることも明らかとなった。(例えば障害ゆえに) パフォーマンスレベルが多様な児童生徒について、通常の学級の教師と連携する場面が増加していることに加え、例外性を持つ個人 (individuals with exceptionalities) への対応をしながら教科学習を進めることが求められていることが主要な根拠となっている。</p> <p>このように、特別支援教育教師の専門職性の特徴として、特別支援教育固有の教育内容と、通常学級教師や他の専門職との連携を念頭においた広範な知識の双方が求められていることの二点が明らかとなった。これらは、学校現場での合理的配慮の実践的要請を探るわが国にとっても重要なインプリケーションであると考えられる。</p> <p>本研究に残された課題として、経費等の関係で実現しなかった専門職基準の計量的な分析を行うことと、教育評価に関する内容を検討することが挙げられる。引き続き、これらの専門職概念の、わが国の特別支援教育の議論への応用可能性をさぐることも必要と考えられる。</p>			
<p>【研究成果発表方法】</p> <p>研究構想、成果の一部は、以下の学会で口頭発表を行った。</p> <p>Murayama, T. (2015) “Professional Development and Special/Inclusive Pedagogy”, The 3rd International Conference for School as Learning Community</p> <p>Murayama, T. (2015) “Pedagogical Content Knowledge for the Multiple Handicapped: The Case Study of an Art Project”, 第10回東アジア教員養成国際シンポジウム</p> <p>村山 拓 (2015) 「非定型発達児にとっての学校知識のありよう—身体観に関する議論を参照して—」、日英教育研究会 2015年度フォーラム</p> <p>上記に加え論文を一件、査読付き国際誌に投稿・審査中のほか、本学紀要に投稿予定である。</p>			